

島根大学研究見本市

研究テーマ名

子どもの社会認識の発達とその形成に関する研究
A Study on the Development and Formation of Social Cognition

研究者紹介

加藤寿朗(教育学研究科・教授)
Toshiaki Kato(Faculty of Education・Professor)

概要

子どもは社会をどのくらい知っているだろうか。社会をどのように分かっていくだろうか。それは、学年や学校段階によってどのような違いがあるだろうか。これらは、社会科授業をはじめとして、子どもの社会認識を育てる教育を行う際に、教師が抱く基本的な問題意識だと思います。この研究では、子どもの社会認識発達に関する量的・質的調査を行いながら、子どもが社会的事象を認識していく過程とその特徴、認識発達に即した社会科授業づくりについて考察しています。

How much about their social environment do children know? How do children come to understand their social environment? How do schools and school learning affect in ways children understand their social environment? These are the basic questions schoolteachers would commonly have when designing social studies curriculum that helps students to form social cognition skills. This study thus identifies the level of development and formation of social cognition in the children of lower grade levels with both qualitative and quantitative methods of analysis. Through inquiring of children's development and formation of social cognition in elementary school years, this study aims to construct social studies curriculum that corresponds to the development and formation of social cognition.

特色 研究成果 今後の展望

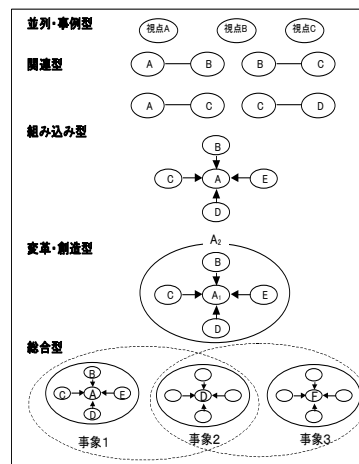
【研究成果】

社会認識発達に関する調査を行った結果、小学生の社会認識は、知識の量的増加や質的变化、分かり方の変容(並列・事例型、関連型、組み込み型、変革・創造型、総合型)というダイナミックな発達を示しました。特に、小学校中学年から高学年にかけては、発達の質的転換期として想定されます。この時期に、並列・事例型、関連型から組み込み型、変革・創造型へと変化・成長していくようです(右図を参照)。

これらの結果については、『子どもの社会認識の発達と形成に関する実証的研究』(単著)風間書房、2007年、『子どもはどう考えるか』(共著)おうふう出版、2010年、にまとめています。

【今後の展望】

現在は、中学生の社会認識発達の調査を進める一方、小学校や中学校の先生方と共同しながら、子どもの社会認識発達を促進する社会科授業づくりに取り組んでいます。中学生の社会認識発達については、「中学生の社会的思考力・判断力の発達に関する研究(Ⅱ)」『島根大学教育学部紀要』第46巻、2012年、にまとめています。



社会の分かり方の発達

キーワード

社会科授業づくり, 小・中学生の社会認識, 発達と形成, 発達の質的転換

リンク

<http://www.edu.shimane-u.ac.jp/staff/staff04.html>